

令和5年4月1日付人事異動発表にあたっての教育長コメント

令和5年3月20日

令和5年4月1日付の教職員の人事異動にあたっては、来年度が最終年度となる「第2期教育等の振興に関する施策の大綱」及び「第3期高知県教育振興基本計画」の目標達成に向けた取組を確実に進めていくための人員配置を行った。

学校の教育目標の達成を組織的に図りながら、本県の継続的な課題である学力問題や、喫緊の課題である不登校などの生徒指導上の諸課題の解決、また、教員の働き方改革や厳しい環境にある子どもへの支援を推進するため、リーダーシップを発揮して「チーム学校」を推進することのできる人材を管理職として登用した。さらに、教職員については、一人一人の能力が最大限に発揮され、より組織的・協働的に取り組んでいけるよう適材適所の配置に努めた。

小中学校においては、チーム学校のさらなる推進を図るため、初任者を配置する125校のメンター制を効果的に機能させるための研修コーディネーター36名を配置することで、校内OJT体制の充実を図った。また、中学校においては、引き続き、教科のタテ持ちや教科間連携など、教員同士が学び合う仕組みを全ての学校で実施していく。

そして、個に応じたきめ細かな指導を行い、学力や不登校等の課題の解決や教員の長時間勤務の改善に資するため、小中学校全学年において、35人以下学級編制を引き続き実施していく。

さらに、不登校の未然防止・解決に向け、小中連携の取組を推進する小学校11校に担当教員11名を配置するとともに、中学校11校に個に応じた多様な支援の充実を図るための校内サポートルームを設置し、11名をコーディネーターとして配置した。また、4地域の小・中・高等学校を指定し、地域一体となった英語教育の取組を通して、児童生徒がグローバル社会の中で活躍するために必要な資質・能力の育成を推進するため、4名の担当教員を配置した。

高等学校においては、県の重要課題である「学力向上」及び「社会性の育成」、「県立高等学校再編振興計画(後期実施計画)」の着実な実行に向けて、学校経営計画に基づいた取組がさらに推進できるよう、体制整備に引き続き努めた。

令和5年度、国際バカロレア認定校として全学年が揃う高知国際中学校及び高知国際高等学校には、グローバル教育をさらに推進していくため、国際バカロレア認定校及び東京学芸大学教職大学院においてIB教育について研修を積んだ教員を配置するとともに、令和5年度も国際バカロレア認定校及び東京学芸大学教職大学院への研修派遣を継続し、国際バカロレア教育に対応できる教員の養成に努めた。

また、令和5年4月に県東部地域の拠点校として新たに開校する安芸高等学校には、校舎完成までの間は、現在の校舎で教育活動を行うため、副校長、教頭を複数配置するとともに、主幹教諭を配置し、体制の充実を図った。

さらに、教科「情報」における免許外指導担当教員の解消に向けて、教育センター内に設置している遠隔授業配信センターに、新たに担当教員を配置した。

特別支援学校においては、障害の程度に応じて、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える指導、支援の充実、自立のために必要な知識、技能、習慣の育成を図るため、障害種別の専門性を有する教員配置に引き続き努めた。

県教育委員会事務局においては、上記のような教育課題等への対応のほか、子どもたちのスポーツ機会の格差解消及び学校の働き方改革の推進に向けた部活動改革や、県立高等学校の振興等に係る次期計画の策定準備に取り組むための人的配置を行った。

また、教育事務職員研修の充実や、免許外指導担当教員への支援の充実に向けた体制の強化を図った。

令和5年4月1日付の人事異動総数(事務局を含む。)は、昨年度比89名減の2,943名であり、そのうち、管理職への登用者は155名、新規採用教職員は270名となっている。